

## 愛媛県蓮乗寺川で採集されたアンパルツノヤドカリ

滝山直人<sup>1</sup>・京谷蒼馬<sup>1</sup>・山川宇宙<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻

<sup>2</sup> 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻



写真1 *Diogenes leptocerus* Forest, 1957  
アンパルツノヤドカリ (TKPM-AR 3578)

### 種の記録

Diogenidae ヤドカリ科

*Diogenes leptocerus* Forest, 1957

アンパルツノヤドカリ (写真1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3578, 1♂, 前甲長 2.4mm, 蓮乗寺川 (愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城), 2026年1月9日, 京谷蒼馬採集.

### 種の特徴

検討標本は、眼柄が第1触角柄よりも長く、第2触角柄よりも短い。左鉗脚が大きく、可動指は不動指より短く、2指の間に隙間を生じない。左鉗脚掌部の上縁に棘列を有する。尾節の後縁が切形で、中央部には切れ込みを有しない。色彩は全体的に灰褐色で、歩脚の各節 (指節以外) に褐色の横縞をもつ。眼柄内側の側面に黒色点をもつ。以上の形態学的特徴が、藤田・大澤 (2012) や有馬 (2014)、Rahayu and Pratiwi (2022) のアンパルツノヤドカリの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

### 備考

本種は、インド・西太平洋に分布し、本邦では琉球列島、本城川 (鹿児島県)、ゆかし潟 (和歌山県) から記録されている (藤田・大澤, 2012; 有馬, 2014; 和田ほか, 2024)。本研究により新たに四国地方から記録された。検討標本以外にも本種と同定される6個体が同時に得られたが、いずれも抱卵個体ではなかったため、再生産の有無は不明である。他方、厳寒期である1月に本種が複数個体見られたことから、越冬している可能性がある。また、検討標本は干潮時でも海水の流入がある感潮域の軟泥底で採集された。本種は生息環境が特殊であるために、干潟域の希少種として準絶滅危惧に選定されており (藤田・大澤, 2012)、種を保全する上で、干潟環境を維持していくことが求められる。

### 引用文献

- 有馬啓人. 2014. ネイチャーウォッチングガイドブック, ヤドカリ. 誠文堂新光社, 東京. 223pp.
- 藤田喜久・大澤正幸. 2012. アンパルツノヤドカリ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野. 185.
- Rahayu DL, Pratiwi R. 2022. *Diogenes matabiru*, a new species of hermit crab from Lombok Island, Indonesia (Crustacea, Decapoda, Anomura, Diogenidae). *Zootaxa*, 5093(4): 493–500.
- 和田恵次・横山耕作・多留聖典・海上智央・横岡博之・金谷 弦・三浦誠矢. 2024. ゆかし潟 (和歌山県那智勝浦町) における軟体動物・十脚甲殻類の記録 (2020～2023年). 和歌山県立自然博物館館報, (42): 47–59.

(2026年1月26日受付, 2026年1月28日公開)

連絡先: 滝山直人 (e-mail: tkym7hermit@gmail.com)  
(Naoto Takiyama, Soma Kyotani and Uchu Yamakawa. 2026. *Diogenes leptocerus* (Diogenidae) collected from the Renjoji River, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 26007)